

## 部活動の活躍について

### ダンス部 世界大会

今年3月、春休みのある日、職員室に大きなトロフィーとフラッグが置かれていた。朝日の職員室にはいかにも似合わないそれは、しかしあまりに神々しく光を放っていた。ダンス部は昨年6月のダンスドリル選手権中四国大会、8月の全国大会を勝ち抜き、世界大会への日本代表として認定されていた。そして今年3月アメリカのテキサス州ダラスで行われた American Dance Drill Team International Championship 2018 に POM 部門で出場。朝日高校ダンス部としては初の国際大会において総合で42校中2位に輝いた。国内選考から半年の間、メンバー変更と構成の練り直しを繰り返し、他の大会の作品と同時並行で練習を続けながら、本番に臨んだ7人のメンバーは全員3月当時2年生。2年間の部活動の集大成として、見事大輪の花を咲かせた。



### 大倉拓真君 国際物理オリンピック2018

7月末、豪雨の報道が続くなかで、3年生大倉拓真君は、国際物理オリンピック2018日本代表の一員としてポルトガルに向かった。昨年からの国内1次予選、2次予選、さらに最終選考を経て5人に絞られた栄えある代表のメンバーである。結果は、出場者上位8%に与えられる金メダルを見事獲得。日本代表5人の中では最高位の成績である。朝日高校の生徒としては、平成21年物理オリンピックメキシコ大会で銀メダルを獲得した難波博之君(H22卒)、昨年化学オリンピックタイ大会で同じく銀メダルを獲得した守田脩究君(H30卒)に続き、二人を上回る成績で



ある。大倉君が書いた文章に次のような一節がある。「身近な自然現象のほとんどは今でも分からない。それを人間の知能の及ぶ範囲にとどめ、究明するのが物理学の役割だ。与えられた問題を解くテクニックの修得に満足せず、物理学の本質を究めたい。」

### 文学部 俳句甲子園全国大会



8月中旬、後期補習が始まった頃、再び吉報が届いた。俳句甲子園全国大会で朝日高校文学部のメンバーが入賞。この大会は正岡子規のお膝元松山市で20年に亘って開催されてきた俳句の高校生大会である。5人ずつの団体戦で、題が与えられ、一人一句ずつ詠んだ後で一句3分以内の質疑応答がある。ここでの議論も作品と併せて評価され、一句ごとに勝敗が決まる。この大会の決勝リーグで、過去20年間で10回(過去10年間で7回)の優勝を誇る開成高校(東京)を、朝日高校が破ったのだ。他の対戦で敗れたため惜しくも決勝進出はならなかったものの、団体特別賞を受賞した。四句目を終えて2-2の同点で、最後に開成を破った句をあげよう。  
「夕鴉(もず)や誰も渡らぬ青信号」

## 今年の富士登山より

平成30年7月29日(日)~31日(火)、2泊3日の日程で1年生110名と引率教員11名で富士登山を実施した。

台風が接近し、岡山を出発できるかどうか心配しつつ当日の朝を迎えた。生徒の祈りが通じたためか予定通りに登山し、八合目を出発した際は暴風に見舞われたが、風もやみ、見事なご来光を拝むことが出来た。

